

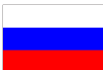
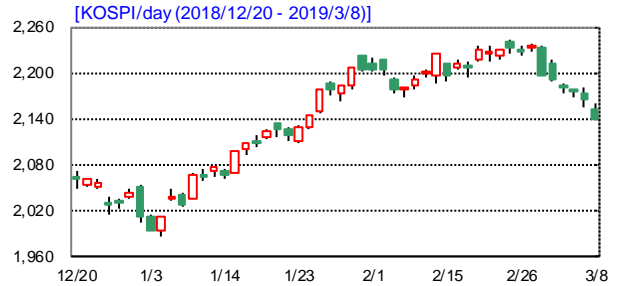


【韓国】 総合指数は週間で 2.6%安と続落、今週は地政学リスクが重荷か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 2.6%安と続落した。週末の 8 日まで 6 営業日続落し、終値としては 1 月 23 日以来、約 1 カ月半ぶりの安値で週の取引を終えた。前週にベトナムで開かれた米朝首脳会談が事実上の物別れに終わり、両国関係の緊迫化が警戒された。米株式相場の下落や経済協力開発機構（OECD）による 19 年世界経済見通しの下方修正も地合いの悪化につながったようだ。個別では、LG 化学、サムスン電子、現代自動車、現代モービス、ポスコなどが売られた。半面、LG 電子、セルトリオンなどが買われている。今週は軟調な値動きか。北朝鮮の非核化を巡る地政学リスクの高まりと世界景気の減速懸念を背景に売り優勢の展開が見込まれる。米国と中国が週内に相次いで発表する主要経済統計も材料視されそうだ。

▼指数チャート

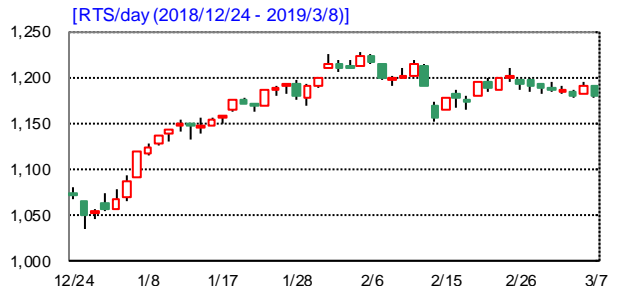


【ロシア】 RTS 指数は 0.7%安と続落、今週はルーブルの動きをにらんだ展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 0.7%安と続落。米国による対ロ追加経済制裁の見通しや通貨ルーブルの下落が重しとなった。先週は 8 日が国際婦人デーの祝日により休場で 4 日間の立ち合い。米国による対ロ追加経済制裁の観測が再び高まり、週明けから上値の重い展開。5 日には 1180.15 ドルと約 2 週ぶりの安値を更新した。6 日は原油価格の上昇に伴う資源大手の業績改善などが物色の手掛かりとなって反発したが、7 日は ECB がユーロ圏の成長率見通しを引き下げた影響で、世界経済の減速懸念が強まり、再び売られた。週を通じたルーブル売りの流れも嫌気されている。個別では時価総額上位のガスプロム、タトネフチ、ズベルバンクなどが下げ、指数の重しとなった。今週は原油相場やルーブルの動きをにらんだ展開か。

▼指数チャート



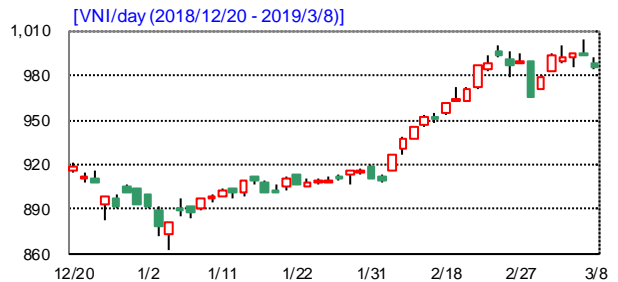
【ベトナム】 ベトナム指数は 0.6%高と反発、今週は強いモメンタムが意識され底堅

いか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 0.6%高と反発。米中通商協議での合意に対する期待を背景に週明けに大きく上昇し、その後もおおむね堅調に推移した。週明け 4 日は 1.5%高と大幅に上昇。米中が貿易協議で合意し、対立の長期化が解消されるとの期待感で不動産株や金融株が大きく値上がりした。その後もこうした期待が支援となる中、中国が今年の成長率目標を引き下げたことが嫌気され、売り買いが交錯。8 日は ECB による成長率見通し引き下げや中国の 2 月貿易統計の悪化を受けて反落したものの、週間ベースではプラス圏を維持した。個別銘柄では、不動産のビンググループ (2.6%高)、ビールのサベコ (1.2%高) などが指数を押し上げた。今週は世界的景気減速懸念がくすぶるも、強いモメンタムが意識されて底堅い展開か。

▼指数チャート



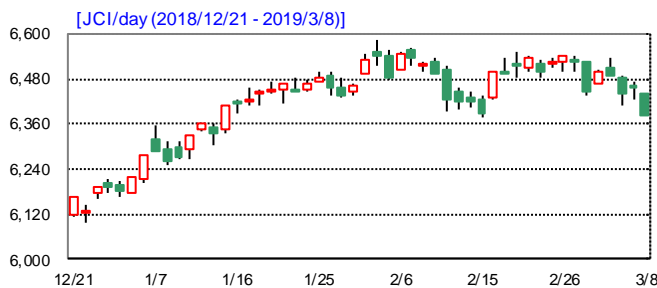


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.8%安、今週は 2 月の貿易統計が焦点

ジャカルタ総合指数は 4 日間の取引で 1.8%安と続落。国内の経済イベントが少ない中、中国の景気減速のあおりで下落した。週初の 4 日に反落すると、5 日は中国で開幕した全国人民代表大会で年間の経済成長率目標が 2 年ぶりに引き下げられたことを受けて続落。6 日は消費関連株と金融株が買われ 3 日ぶりに反発したが、祝日を挟んだ 8 日は中国の 2 月の輸出額が前年同月比 20.7%減と市場予想から大幅に下振れた影響で、指数は前日比 1.2%安と 6400 ポイントを割り込んで引けた。今週は 15 日に 2 月の貿易統計が発表される予定で、前月まで 4 カ月連続で赤字だった貿易収支が黒字に転じれば好材料となる。

▼指数チャート

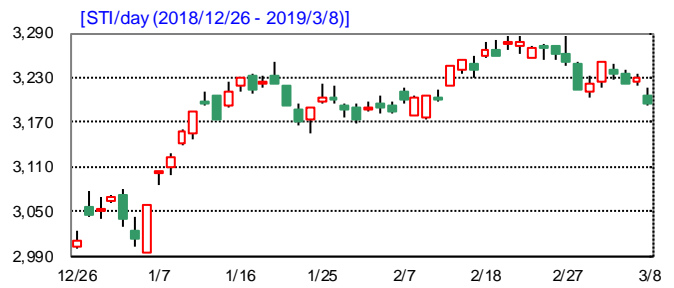


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.8%安、世界的な景気減速懸念が足かせ

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.8%安と続落。週末の下落が指数を押し下げた。週初の 4 日は米中貿易協議の進展に対する期待感から買われ、指数は前営業日比 1.0%高と続伸。一方、5 日は前日の取引終了後に発表された 2 月の製造業 PMI が 50.4 と前月の 50.7 を下回ったことが嫌気されて反落した。6 日に小幅に続落した後、7 日は金融株と消費関連株が買われて反発したが、8 日は世界的な景気減速への懸念が広がり、終値で前日比 1.0%安と約 1 カ月ぶりの安値を更新して引けた。今週は 12 日に 1 月の小売売上が発表される予定。外部要因では中国の 1 月の鉱工業生産と小売売上が焦点になりそうだ。

▼指数チャート

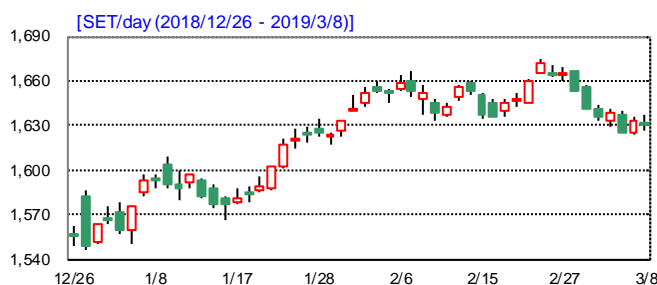


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.7%安、タクシン派政党に解党命令

SET 指数は週間で 0.7%安と続落。一進一退のさえない値動きが続いた 1 週間だった。週初の 4 日は買い材料に乏しく、3 営業日続落してスタート。5 日は小幅に反発したが、6 日はタクシン元首相派の「国家維持党」が先月、次期首相候補として王女の擁立を試みた動きの違法性を問う憲法裁判所の判決を翌日に控えた様子見で売られた。7 日の判決では同党に対し、立憲君主制に背いたとして解党が命じられたものの大きな混乱はなく、原油価格の上昇でエネルギー株が買われて反発。ただ、8 日は再び反落して取引を終えている。今週も経済指標の発表が少なく、24 日の総選挙に向けた動向が意識されそうだ。

▼指数チャート

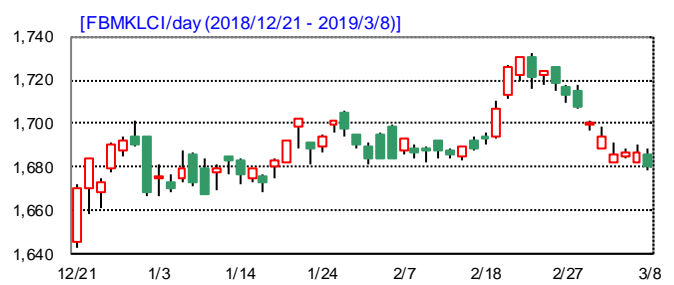


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.2%安、今週は 1700 ポイント回復に期待

クアラルンプール総合指数は週間で 1.2%安と続落。週初に節目の 1700 ポイントを割り込むと、週末まで軟調な値動きが続いた。4 日は 1 月の輸出額が市場予想を上回ったものの、18 年 10-12 月期の企業業績に対する失望感の広がりを受けて売り優勢の展開となった。5 日まで 6 営業日続落した後、6-7 日は小幅に上昇したが、8 日は中国の輸出減に加え、ECB が年内の利上げ断念と銀行向けの長期資金供給策の導入を発表した影響で世界経済の先行き不安が強まり、反落した。今週は 14 日に 1 月の鉱工業生産が発表される予定。前週末まで 5 日続落した NY ダウが下げ止まれば株式相場の支援になりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。